

萩博物館特別展・企画展開催実行委員会

山口県日本海の特記的生物に基づく現代版「妖怪」の創作 ～萩博物館 2024 海の妖怪展に向けて～

調査研究期間：2023年5月1日（月）～2024年3月31日（日）



【調査研究の内容・目的】

- 萩博物館の開館 20 周年となる 2024 年に「海の妖怪展」を開催するにあたり、展示する珍魚や怪魚（特記的な海洋生物）の選定や制作、展示に込めるメッセージの調整にかなり時間や労力がかかると考えられるため、1 年前から綿密に準備するためにこのプログラムを実施した。
- 2024 海の妖怪展で展示する特記的生物を選定し、その標本を整理・制作し、一部を高校に持ち込み、昔の妖怪画の実例をレクチャーしたりワークシートで手順を示したりしつつ、高校生に珍魚・怪魚や海の異変をモチーフに現代版「妖怪」を創作してもらった。
- 2024 海の妖怪展で多くの来場者に海の異変に関心をもってもらい、そこから教訓を得てもらうという展示構想に目途がついた。また、今後も共に取り組むことができる可能性のある機関・人材のネットワークができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

1. 調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】

■堀 成夫（萩博物館特別展・企画展開催実行委員会）

【調査研究分担者】

■河野光久（山口県水産研究センター）

■久志本鉄平（下関市立しものせき水族館）

■若林敏江（国立研究開発法人水産研究・研究機構 水産大学校）

■和田律子（国立研究開発法人水産研究・研究機構 水産大学校）

■福田善子（山口県立美術館）

■上利英之（山口県立大学）

■都志見有稀（萩光塩学院高等学校）

【実施計画】

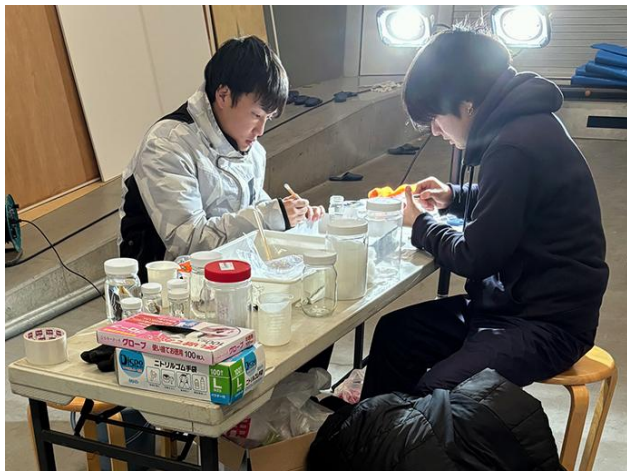
■1 カ年計画 1 年目

【主な調査研究対象など】

■山口県日本海の特記的生物の選定、標本の整理・制作

■特記的生物や海の異変をモチーフとした現代版「妖怪」の創作

■海の異変から妖怪を着想・創作するためのワークシートの制作



展示用の特記的生物の標本の制作（1－①）



ムラサキダコを使って制作した
「化けダコ」のミイラ（1－②）

・以前から萩市を含む山口県日本海にしばしば出現する珍魚・怪魚（特記的生物）のうち、2024 海の妖怪展で展示紹介する意義のあるものを選定し、それらに関する標本を収集したり萩博物館に集積したりした。その標本を整理したり、形態を整えたり、新規に標本として制作したりし、計 122 点の標本を準備した。

・萩市あたりで昔から「化けダコ」として伝承されてきた妖怪の正体とされるムラサキダコは、水産食品制作技術を参考に「ミイラ」風の乾燥標本として制作した。

・これらの作業を通じ、2024 年海の妖怪展で一般の親子向けに展示紹介する標本が準備できたことで、人々が郷土の海の現状を知り、海の変化に関心をもつ契機作りの礎ができた。



珍魚リュウグウノツカイの標本を前に、
海の環境変化に関するレクチャー（2ー①）

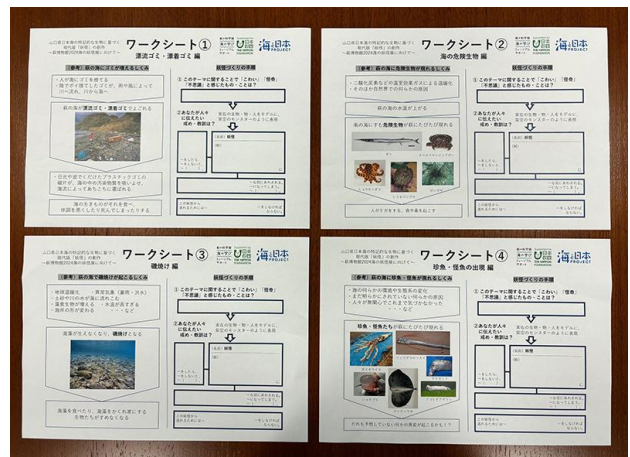


海水温上昇により増えたウニの一種・ガンガゼ
の生体の観察（2ー②）

- ・萩光塩学院高等学校に赴き、妖怪とは何か、昔の人々の妖怪に関する着想方法や表現方法などを生徒へレクチャーした。さらに、萩を含む山口県日本海の珍魚・怪魚（特記的生物）の標本や海の環境変化に関する写真を生徒に見せ、インスピレーションを感じてもらい、それをモチーフに現代版「妖怪」を創作してもらった。
- ・当初は海の異変から妖怪を創造するのは難しいと予想されたが、生徒の関心は高く反応も良く、新たな妖怪のストーリー設定や絵の描画を精力的に行い、作品数は計11点に達した。
- ・これにより、現代の人々に海への畏怖の念を取り戻してもらい、海の異変から教訓や警告を導き出すという2024年海の妖怪展の構想に目途がついた。この妖怪展を通じ、海の現状を知り、海を未来に引き継ぐためどうすべきか考える機会が生まれることが期待される。



市内高校でのワークシートの運用（3ー①）



制作した4種類のワークシート（3ー②）

- ・珍魚・怪魚や海の異変をモチーフに妖怪を創作してもらおうという一見難しそうな取り組みを円滑に実施できるよう、海の異変を4つのカテゴリーに分け、カテゴリーごとにワークシートを計4種類制作した。その上で、高校生を対象に上記2の授業において試行した。
- ・高校でのワークシートの試行はほぼ奏功し、シートがあった方が頭の整理がしやすく便利であることが確認できた。ただ、多少なりともスタッフや先生方の声掛けや助言があった方が作業が進みやすかったため、2024年海の妖怪展の付帯事業に適用するには、シート内のコンテンツをさらに分割して整理し、平易な言葉で表記するなどの対策が必要と考えられる。
- ・上記の課題を解決することで、2024年海の妖怪展やその付帯事業の参加者が自律的に海の現状を整理し、その展望や教訓を考察する機会の創出につながることを期待される。

2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

■博物館活動の形態：2024 年度萩博物館夏期特別展「海の妖怪展」およびその付帯事業

■実施時期：2024 年 7 月 20 日（土）～9 月 23 日（月祝）

■実施場所：萩博物館 企画展示室・人と自然の展示室・探 Q はぎ博、萩・明倫学舎等

【実施内容】

■「海の妖怪」をテーマに、萩博物館の夏期特別展をアフターコロナ時代のニーズに合った体感・体験型にしつつ、自然・人文双方からの切り口でイノベーションすることで、当館の開館 20 周年メイン行事としてのプレゼンスを発揮し、親子向け萩観光を牽引する新ブランドを構築する。

■展示会の内容としては、古来伝わる海の妖怪と、それらを創造した人々の思いや文化に親しんでもらうことで、昔の人々にあった「海への畏怖の念」を伝承する。さらに、郷土の海に珍魚や環境変化が現れていることを知ってもらい、その実態を知り因果を考える機会を創出する。

■海の異変をモチーフに妖怪画を描くコンクール、海の妖怪を探索するスタンプラリー、貝でおまじないグッズを作るワークショップ、夕方の妖しい海を巡るクルージングツアー、本展の一部コンテンツをアレンジしたボックス型展示物の制作などの付帯事業を実施し、展示会とあわせて多くの人々が海の現状を理解し関心を高めることのできる機会を増大させる。

【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

■本展のコンテンツの考案や制作、付帯事業の準備や実施においては、本プログラムの連携機関のほか、観光・商業関係の施設・団体などとも連携することで、多角的な視点から海を知り海を守る機会を作る。また、今後も萩市周辺で海の持続利用に関わる活動を進めていくためのネットワーク作りを進める。

■本展のメッセージやコンテンツを全国各地の海の学びコーディネーター有志で共有し、リレー形式で活動・進化させながら持続可能かつ発展性のある展示や活動のシステム作りを行う。

【特に学校教育との連携について】

■児童生徒が本展を観覧・学習したり、本展で見た海の異変をモチーフに妖怪を創造したりできるワークシートを制作し、学校現場や教育関係者と協働で利活用方法を検討・調整することで、市内の小中学校の理科授業や郷土学習などで活用できるようにする。

【事業全体のまとめ】

■萩博物館が開館 20 周年記念として 2024 年に開催予定の「海の妖怪展」の準備のため、萩市を含む山口県日本海に出現する珍魚・怪魚（特記的生物）のうち、展示紹介する意義があると考えられる種類を選定し、計 122 点の標本を整理・制作した。中には、海の異変との関連が明確なものと必ずしもそうと言い切れないものがあるため、2024 年海の妖怪展では可能性のある異変のカテゴリー別に標本を展示するなど誤解を生まない展示方法を検討する予定である。また、萩付近で昔から「化けダコ」として妖怪視され伝承されてきたムラサキダコのミイラ風の乾燥標本も、2024 海の妖怪展の展示物として制作した。

■萩光塩学院高等学校において、妖怪の定義や歴史、昔の人々による妖怪の着想方法などを生徒にレクチャーすると共に、現代の萩に生じている珍魚・怪魚や海洋環境の変化に関する情報や写真・標本などを示した上、海の異変をモチーフに現代版「妖怪」を創作してもらい、計 11 点の絵を創作することができた。

■上記の学校生徒による妖怪創作においては、海の異変の認識、それをモチーフとした妖怪の着想、ストーリー設定などを円滑に行うことができるよう、ワークシートを 4 枚制作して試行した。今後、このワークシートを 2024 海の妖怪展の付帯事業において一般の親子に妖怪画を創作してもらったり学校の理科学習や郷土学習でも活用したりできるよう、内容の調整や平易化を行う予定である。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 山口県水産研究センター 河野光久	特記的生物についての情報交換、標本の収集、因果関係の論議など
2. 下関市立しものせき水族館 久志本鉄平	特記的生物についての情報交換、標本の収集、因果関係の論議など
3. 国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校 若林敏江	ムラサキダコの乾燥標本の制作、特記的生物の標本整理・制作を担う大学生の派遣
4. 国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校 和田律子	ムラサキダコの乾燥標本の制作
5. 山口県立美術館 福田善子	妖怪の定義や古絵図の種類・背景に関する情報提供、高校生による妖怪画創作授業の手法に関する論議
6. 山口県立大学 上利英之	高校生への妖怪の定義や古絵図に関するレクチャー、高校生による妖怪画創作における助言・支援
7. 萩光塩学院高等学校 都志見有稀	高校生による妖怪画創作授業の調整・人選、高校生による自律的な創作活動の支援

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. なし	なし
2.	

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。